

着合宿 (赤二ハマケケ宿) 2年 三浦充永
S 54, 3月26日～4月6日 (この時は1年生)

斎藤, 名取, 亀山, 佐藤, 三浦の1年生
5人が着合宿のメンバーであった。(酒井も
ついてくるはずだったがイヌの目の疾いにかか
ったのでオコシテ。)

さて話ははずんで、ここは宮崎県日向市、
3月27日のことである。前日に東工大から出発し、
日本カーフェリーではるばるや、てきたアホの5人
は、ホントにここが九州なのかしらん、と目ざし
は強いが、さわやかな風が吹く南国に上陸して、
感じていたのである。フェリーを降りた所に、斎藤
のダチだといいはる 正親 といっしょになった。
まあここまでは、打ち合わせ通りであったが……

さて話は、進んで、3月29日。青島のキャンプ場
をいさんで出発した6人であったが、日南海岸を軽
快に飛ばしたのだが、空模様がおかしくなり、
死んだ。……雨が降ってきたのは 大堂津 という
あたり。こりゃ走れんと思った6人は、駅で雨や
どり。その時から6人の悲劇は始まった。

雨はやむどころか、勢いづいて嵐になってきた。
6人は顔を見合わせ、夕ラー。午後1時ごろで
あたら、宿泊所をリーチしておいた方がよいと思
った三浦は、近くのYHに予約の電話を入れた。
しかしその後、6人の協議で、民宿に泊まろう
ということになり、三浦はYHの件でチョンホ
をとられ、満貫払いた。ただ、夕マで逃げた。
雨の中を6人は、民宿を求めて、ペダルをこぎた
した。雨は弾丸となって6人を襲い、風は前人進
もうとする者を引き戻そうとする。ある商店へ飛
び込んで、民宿はどこにあるかと尋ねたら、あと
4km先だと聞いて、しばし放心状態。ここまで来
たら意地だと思い、その店で買ったヤキイモ6
を背籠が持て、長い道のりへの旅に出た。その
商店のお兄さんが親切にも車で誘導してくれ
たのだが、その車になかなかついていけない。た
前を向いて走ると、目に雨つぶがとび込んできて
何も見えなくなるので、6人が全員前を向いては走
っていったのである。横目、横目で、ただ早く民宿
に着きたいという気持だけで走っていた。途中、信号
待ちの所で、ヤキイモの袋が破れ、3、4、がゴロ

ゴロと下に落ちて、下めになったが、大雨も文句は言はない。ただ口を開けて見ていただけだった。

さてここは民宿の玄関。当然全身スレネズミにな。たも人が玄関の所に山積みになたどうしようもない荷物は目ミヤリ、完璧なる放心状態。三浦は、ジージの寝さしほろうにしているが、体が思うように動かない。少し指を震わ口タバコをくわえている斎藤は、自分の指が焦げているのにまた気付かない。なぜこんな思いをしなければならぬんだと考えようとするが、頭がいたいのでもヤメにして、順に風呂に入った。がと気が落ち着いたも人は、やと放心状態から脱出できたのである。夜中、床にいた三浦は、こんなに苦しかった日はもう二度とないだろうと勝手に決めて眠ったのである。

3月31日、日中は雲がたちこめ、いやな予感を感じながらもも人はフラットな道路を飛ばした。3時ごろにキャンプ場に着き、夕食はジンギスカン。小雨がぱらついてはいたが、大丈夫だと確信してテントの中でトランプなどをやっていたが、夕時ごろ雨が強くなり、このままではドラエモンじゃない、ドサエモンになると思い。三浦と亀山が

は、台風の上陸した佐多岬であった。なぜこんなに雨が降るの？ なんにも悪いことしてないのにと思ってみてもしかたがない。当然その日もズブズブになって指宿のYHへかけこんだ6人であった。暑くのが疲れたので

もう頭に来たぞ。この合宿は雨ばかりで、晴れてよかったなあ～と感激したのは天草だけだ！

あとはすべて魔の放心状態の連続技で勝負がつき、フィニッシュブローはハリケーンホルトであった。
(意味がわかるん)

しかし、この合宿で東工大サイクリング部の1年生の団結力がい、そう強まったのは風のたよりに聞いた話だった。

付録

サイクルサッカー について

2年 三浦亮永

東工大サイクリング部の中に サイクルサッカー をやっている人々がおります。彼らはほとんど毎日、練習に汗を流しているのです。勿論、他の部員と同様に ツーリングもやっているんで、そのサッカーをしている彼らは、自由な時間が、あまりないので。確かに 好きで サイクルサッカー をやっているのでしょう。彼らも 土曜日の夜ぐらいは、ゆくり、友と語りながら酒でも飲みたいたいでしょうが、練習で その夜は終わってしまいます。ですから他の部員も 少しは サッカー に興味を持ち、彼らの気持ちをもう少し理解してほしいのです。彼らの甘え かもしれませんかね。

